



●児童生徒会役員（写真左から 敬称略）

（後列）小田桐舞佳（7年） 野呂伊舞稀（8年） 音喜多悠真（8年） 山中 誇守（7年）
（前列）櫻井 日向（5年） 西 優仁（6年） 音喜多梨乃（6年） 鶴岡久玲愛（5年）

自身で未来を切り拓く力を 育む教育を実践することが 私たちの使命。

Interview.

庶路学園
校長 福原克洋



ふるさと教育を基軸に
義務教育学校として
特色ある教育活動を推進

義務教育学校とは、2016年度から正式に制度化されたもので、小学校から中学校までの9年間の義務教育を一貫して行う学校のことをいいます。

庶路学園は、2018年（平成30年）4月に釧路管内初の義務教育学校として開校しました。全国的にも先駆けて、そして避難所施設も兼ね備えた庶路学園には、これまで鈴木直道北海道知事をはじめ、道内各地の教育委員会や学校、道外からも千葉県や宮城県の町村会など、多くの方が視察に訪れています。

庶路学園が開校してから、3年が経とうとしています。庶路小学校と庶路中学校が、庶路学園という義務教育学校になったことでどのように変わったのでしょうか。庶路学園の福原克洋校長に聞きました。

——義務教育学校には、どのようなメリットがあるのでしょうか。

中学校進学時に環境が大きく変わることによって、不登校者が増える